

Mさん 上海の旅の報告、虹口という所に旧日本軍の建物が現存し、それが今も病院や店舗・住居として使われている事、戦時中そこを守った人々の様子など細かに語られた。オンドリ夫婦の奥様は別の行事と重なり、どちらもお揃いで出席のはずの所、双方にお一人ずつの出席でした。

S夫妻 ご主人が代表して歓迎の辞。サーバスが大好き、受け入れにOKを出すのはYさん お世話はすべてSさん。お二人で英会話の勉強にも通っていられる。

W 新入会員の若い方がいらしたのでサーバスの嬉しい体験を少し語る。

Dさん 国際サーバスの peace secretary。南仏トゥルーズ郊外出身。日本は25年ぶりで2回目。サーバス歴は7年。ポーランドの世界大会でH支部長と出会い、H支部長はすでにDさんを訪問。フランス語、スペイン語を英訳する事が仕事。決して若くはなさそうですが、実に生き活きと若々しくまぶしかった。続いてニュージーランドの世界大会に出席の予定。

Eさん サーバスフランスメンバーの娘、2代目のサーバス。パートナーと共に14か月の世界旅行中。偶然、Sさん宅に滞在していて支部例会への参加となる。

Jさん サーバスフランスのメンバー、Dさんよりはサーバスの先輩。ニコンのカメラで写真撮影に余念がない。Dさんとの二人旅を楽しんでいる。殆ど英語を話さず、Dさんの通訳に拠っているが、十分に理解し楽しんでいる様子。

Hさん 5月に行われたモンゴルからの障害児教育視察団の成果の一端を報告。障害児が帰国後、それまで行けなかった学校に行けるようになり、授業に熱心に取り組んでいる写真が二度にわたって届く。彼は得意の絵に熱中、以前は人との関係を持てなかったが、帰国後は先生にキスをしていいか？と尋ねて嬉しそうにキスしている写真もある。どの表情も生き活きと嬉しそう。両親にも疎んぜられがちで叱られることが多く、人前でも困る場面に接してきたが、日本滞在時の受入れ者、S夫妻の深い思いやりのある篤い数日間の生活で、子供をしっかりと受け入れて、優しく理解してあげる事を学んだ両親が、帰国以後それを実行に移せたようだ。それにしてもS夫妻とその家族はボディラングエッジが中心、真心は言葉を超えて伝わった！今後もモンゴルとの交流が続く方向を目指している。財政的にも多くの支援があったお陰も大きい。サーバスを通じてこのような働きが出来た事は嬉しい。

Qさん Eさんのパートナーでソーシャルワーカー。黒髪・黒い顎鬚が特徴的な長身の青年。ここでDさん等フランス人二人とサーバス支部会例会に出席しているだけでも充分偶然だが、4人がお互いに出身地が南仏であることにも歓声を上げていた。不思議な偶然である。

Uさん 堺市からの初参加。Hさんのピアノのお弟子さん。大変若いお方。H先生からサーバスの話題を聞くうちに、ピアノだけでなく英語も習って、この度サーバスに入会。年末にカナダへワーキングホリディとして出発。カナダで初サーバス旅行を計画。英語も明確。高齢化一方のサーバスに若い方の参加は有難い。

Aさん 50年前のサーバスの揺籃期の詳細をしみじみと語られる。普段は忘れがちな当時の様々な事情を聴きながら、自分の当時も思い出しては嘔みしめた。ここまでの道程を忘れてはならない。英語と海外に憧れながら、ホームステイの実現など夢のまた夢。それが今サーバスを通じて数多くの心温まる往來が何度も繰り返されている。時代の流れだけでは在り得ない。

ランチは最後のコーヒーでいったんお開き。DさんたちはS家名物自家製五右衛門風呂を楽しまれる。その間 近畿支部のミーティング。

ミーティング後、メはSさんお手製の栗の茶巾しぼりでお茶を頂く。

2 台の車で琵琶湖畔へドライブ。快晴に恵まれ、丁度よい涼風をうけての散策。Jさんは撮影に余念がない。五時ごろビュルツブルグハウスの戸外レストランへ。まだお腹が空かないが、お腹にドイツの



軽食を。そこへちょうど満月がゆっくりとのぼる。さざ波に月光が煌く。美しい！恰好のお月見。Aさん Mさんを石山駅へ送り、石山寺の秋月祭へ。S夫人とWは山門まで。9時閉門までをHさん Sさんと4人のフランス人は、琵琶の演奏などと共に、仲秋の名月を石山寺月見台にて鑑賞。9時Wが山門に出迎え、Sさん宅と石山駅への2台に分かれ、別れを惜しみ、再会を約し、名月の夜は更けた。

Dさんの speech 「サーバス各国における平和活動」

京都市 H.T

Dさんは Servas International の Peace Secretary です。

サーバスはエスペラント語の Serve(奉仕)からきている。サーバスの根本は Serve である。各国では色々な Serve の活動が行われている。サーバスが主催しているが、対象はサーバスの人だけではない。トルコでは子供を対象に Peace Children の活動を、コスタリカでは1人暮らしの老人に連絡を取り、必要な援助をしている。アルゼンチンでは Independent Day に木を植える活動、サンフランシスコではホームレスに働きかけている。韓国では Peace Rider 等々枚挙にいとまがない。日本サーバスが行っている東日本震災復興への活動、モンゴルとの障害児教育の活動も立派なサーバスの平和活動である。各国の取り組みを紹介しながら、以上のような話をして下さいました。

議題1 報告「日本サーバス国内会議」

日本サーバスの本部会報に従って行いました。国内会議の詳細は、間もなく議事録がホームページにアップされるので、ご覧下さい。

議題2 討議「モンゴル障害児教育支援」の取り組みについて

今年度日本サーバス主催でモンゴル障害児教育研修団を受け入れました。その時、寄付をお願いした所、目標額を上回る額が寄せられました。寄付して下さいました方々はモンゴルの障害児のために使って欲しいとの事です。それで寄せられた寄付金を基に来年夏にモンゴルで日本・モンゴル障害児・者交流キャンプをすればどうかと5月に行ったモンゴル歓迎会で提案した所、好意的に受け止められました。又、今回はホームステイという形でモンゴル障害児教育研修団を受け入れましたが、今後は障害児に焦点が当たるので、日本サーバスだけではなく、今回協力して下さいました方々にもご協力頂いて、日本モンゴル障害児・者交流会を立ち上げて活動していけばどうかと提案していた事も討議しました。

結論

- ① 来年度モンゴルで日本・モンゴル障害児・者交流キャンプを行う事に賛成である。
- ② 日本・モンゴル障害児・者交流会を立ち上げ、活動してゆく事に賛成である。近畿サーバスも会員になる。
- ③ 以上の件について次の日本サーバス国内会議に提案し、日本サーバスも会員になる事について、討議を求める。

2、トラベル報告

南イタリアの旅（2015年8月1日～19日）

Bari ~ Fasano ~ Brinsidi ~ Napoli ~ Catania

交野市 K.K

1年ぶりのサーバス旅行はイタリア、と言ってもローマやベニスではなく、日本ではあまり観光地として知られていない南イタリアを回って来ました。初めの目的地はイタリア半島の先端、長靴のかかとの部分に当たるプーリア州です。が、ローマ行きの飛行機が遅れたために乗り継ぎに間に合わず、ハラハラドキドキな旅のスタートとなりました。しかしホストのVは約束どおりバーリ Bari の空港で私を待っていており、一瞬で不安が消えていきました。その日は近くのジョビナッツォ Giovinazzo という海沿いの町までドライブし、城壁に囲まれたかわいい中世の町並みを案内してくださいました。次の日に行ったトラーニ Trani もそうですが、プーリア州は海岸沿いにかわいい中世の町並みがたくさん見られ、素晴らしい海の景色とあいまって、どこをとっても絵になるような魅力的な場所がたくさんありました。

次のホストは Bari 旧市街のすぐそばに住む R と V。着いてすぐさっそく V が旧市街を案内してくださいました。ガイドブックでは危険と書かれていた Bari 旧市街ですが、彼女のガイドのおかげで歴史的な背景も含めて存分に楽しむことができました。また、サーバス活動に活発な R の話はどれも興味深く、もっともっと聞かせてほしいと思うほどでした。この日はパリの大学に通うお嬢さんも帰って来て、9歳のやんちゃな弟を含め、家族みんなで囲む楽しい食卓に参加することが



できました。イタリアの家庭はどこも地方色豊かな家庭料理を大事にしており、時間をかけてゆっくり頂きます。食事と会話、そして何より家族を大事にするイタリア人気質を実感することができました。次の日は Bari から電車で約1時間半のマテーラ Matera へ、世界遺産にも登録されている洞窟住宅「サッシ Sassi」を見に行きました。高台や崖の壁面に張り付くように広がるサッシの景色は圧巻で、1日歩いて飽きることはありませんでした。



Bari からさらにプーリアの南へと移動する日、Bari のサーバス会員 T からランチの招待を受けました。日本からホストリクエストのメールを送った際に、「その日は娘がローマから帰って来るからホストはできないけど、ぜひご飯を一緒に！」と誘われたのです。「これはプーリア名産のチーズ、これは近くの町で作られている生ハム、これは私が作ったレモンチェッコ・・・」と、出てくる料理はどれも私のために用意してくださった地元の名産物を使った手料理。味はもちろん、その気持ちがとてもとてもうれしかったです。また途中で立ち寄ったポリニャーノアマーレ

Polignano A Mare の海の眺めは、他では決して見る事のできないものでした。

次のホストはファザーノ Fasano という街の郊外に住む D と M 夫妻。8歳のお嬢さんを筆頭に、6歳、5歳、1歳と4人のお子さんがある大家族です。着いた日は親戚家族もお子さん連れで遊びに来ており、まるで保育所に来たようなにぎやかさでした。Fasano はと



んがり屋根の町アルベロベッロ Alberobello の近くということで、次の日は車でアルベロベッロまで送っていただきました。歩いて歩いてもとんがり屋根の家トゥルッリが続く町並みは本当にかわいらしくて、「これぞおとぎの国！」という感じでした。そこから電車で白壁の街ロコトンド Locorotondo も訪れ、写真に撮りきれないほどの景色に胸がいっぱいになりました。南イタリアの特徴は、夜が長い（遅い？）ということ。日差しが強く昼間が暑過ぎるせいか、地元の人たちは6時くらいから戸外での活動を初め、8～9時くらいに晩御飯を食べます。そして、その後涼しくなった街にお出かけなのです。この日も晩9時過ぎに「今からこの地域のお祭りがあるから出かけない？」と誘われ二つ返事で快諾しました。もちろん1歳のお子さんも含め4人のお子さん全員を連れての夜のお出かけです。イタリアは各都市にそれぞれの守護聖人パトロンがいるのですが、その日は Fasano の守護聖人の祝日で、夜遅くまで小さい子ども達も一緒にお祭りを楽しんでいました。特に、プーリアに伝わる伝統的な踊り「ピッツィカ Pizzica」の輪に入ってダンスを教えてもらい、目が回ってふらふらになるくらい何曲も踊ったことが忘れられない思い出となりました。次の日は家族みんなでビーチへ。南イタリアのきれいな海を満喫し見事に日焼けしました。その晩もまた9時過ぎから家族でお出かけ。近くのモノポリ Monopoli という街を案内してくださいました。最後の日は私がどうしても行きたかったオストゥーニ Ostuni の街へまたまた家族みんなと一緒ににお出かけ。丘の上にある白い迷宮の町オストゥーニは、旧



市街のどこもかしこも白壁が続き、夢のような町でした。小さい子どもがいると知っていたので千代紙や折り紙をたくさん用意していたのが子ども達に大人気で、1つ教えると「他にも教えて！」次から次へと質問せめて、1時間以上の折り紙教室となりました。このホストの家の庭には樹齢数百年の立派なオリーブの古木があり、オリーブを愛する南イタリアを感じる3泊4日でした。

次のホストはブリンディシ Brindisi という街の L。実は事前にホストを予定していたレッツェ Lecce のサーバスが、家族の病気で急にホストできなくなり、電話でホストを依頼したところ急にも関わらず引き受けてくれたのでした。その日は着いてすぐ娘さんとお孫さんと一緒にビーチへ海水浴。プーリアの人たちは本当に毎日のように海水浴に行きます。そのあと夕方からは L の彼女と一緒に郊外のマッセリア（広大な敷地を持つ農園）の屋外シアターへ演劇を見に行きました。イタリア語が分からないので劇の内容はちんぷんかんぷんでしたが、マッセリアの雰囲気はとてもよく、長い夜を有意義に楽しむイタリアの新たな一面を垣間見ることができました。次の日はレッツェ観光。バロック様式の街は他のプーリアの町とはまた一味違って、歴史の厚みを感じました。この夜もまた郊外のオーガニックマーケットへお出かけ。地元の食品が並ぶブースを見て回ったり、有機食品の出店で最高に美味しいブルスケッタとパスタを食べたり、プーリア最後の夜はおいしいプーリア料理でしめくりました。

次の目的地ナポリ Napoli へは、プーリアからバスで4～5時間の旅でした。ナポリのホストは街の中心から少し離れた広いアパートメントに住む M と F ですが、2人はギリシャにバカンス中ということで、息子の A のお世話になりました。着いて早速「お昼ごはんまだでしょ？」と美味しいパスタをご馳走してくれました。ナポリ滞在中は、ナポリ市街地の観光はもちろん、電車でポンペイ Pompei の遺跡を見に行ったり、バスでアマルフィ Amalfi 海岸に行ったり、フェリーでカプリ Capri 島やプローチダ Procida 島に行ったりと、周辺の観光名所をひたすら歩き回りました。細い路地裏の道は迷路のようで、あてもなく歩いているとびっくりするような絶景に出会ったり、行き止まりだったり、街歩きそ

のものを楽しむことができました。どの地も歴史が深く、そして海がきれいで、南イタリアらしさがあふれていました。

最後の目的地はシシリア島のカタニア Catania。夜のフェリーで12時間かけて海をわたりました。カタニアのホスト O は料理が得意で、毎日おいしいイタリア料理をご馳走してくれました。また語学に興味があり、日本語の文字や言葉の説明を熱心に聞き入っていました。初日の晩はサーバス仲間の M と一緒にアチリアレ Acireale やその周辺の街を案内してくださり、一緒においしいピザを食べました。2日目は M



の案内で O も一緒にカタニアの近くにある標高3300mの活火山、エトナ山へ。途中で立ち寄ったカフェでは、シチリア名物の朝ごはん「グラニータ コン ブリオッシュ Granita con Brioche(シャーベットとパン)」を食べました。「朝からシャーベット？しかもブリオッシュには喜んで食べる??」と頭は？でいっぱいでしたが、朝から暑くて乾燥したシチリアでは、これがとてもおいしかったです。エトナ山は約2000mの高さの所まで車で連れて行ってくれました。噴火口や溶岩流を見ることができ、またいろいろな解説も聞くことができとても特別な体験でした。その後は有名な観光地タオルミーナ Taormina へ。海の色が深く青く、そこに浮かぶイソラベッラ Isola Bella の美しさは格別でした。次の日はバスでシラクサー Siracusa へ。天気良かったせいか、このイタリア旅行で最高にきれいな海に出会うことができました。イタリアの人は若い人もご老人たちも本当によく海に入ります。そして誰もかれもがよく日焼けしている！でも、こんなにきれいな海が身近にたくさんある南イタリアに住んでいたら、そりゃみんな海に行くよね～、行かないなんてもったいないもんね～としみじみ実感しました。カタニアでは5月から10月まで(天気がよければ11月まで)泳げるそうです。イタリアの学校は夏休みが3ヶ月あるそうですが、大人も子供もみんな夏休みのバカンスを上手に楽しんでいるなあと思いました。その日の晩は O の娘さんが帰って来て、友達20人ほどを招いて屋上のテラスでバーベキューパーティー。カタニア名物の馬肉も食べました。20代の若いイタリア人たちと夜中の3時過ぎまで食べたり飲んだり語ったり、O に言わせると、「これが典型的なイタリア人よ！」ということで、またまた特別な体験を味わうことが出来ました。

今回の18泊19日は、フェリー泊を除き全て6軒のサーバスホストにお世話になりました。どの家庭も本当に温かく迎えていただき、地元の料理や名所を紹介してくださいました。また日本の文化についても興味深く聞いてくださり、イタリアのこともたくさん教えていただき、素敵な出会いにただただ「ありがとう」の気持ちでいっぱいです。普通の観光旅行ではぜったいにできないことを、たくさん体験することができるのがサーバス旅行の魅力です。人と出会い交流し、新しいことを学び、自分の視野を広げる、そんな特別な機会を与えてくれるサーバスに改めて感謝の気持ちを表し、旅の報告とさせていただきます。

3、トラベラー受入れ報告

感激の再々会

京都市 K.K

S (ドイツ、ハイデルベルグより) 7月4日～9日

ドイツ、ハイデルベルグのメディカルセラピストとして活躍のSさんとは3度目の再々会！1度目は2011年10月に我が家に、2度目は2013年に私がハイデルベルグに訪問、そして3度目は今回もう1

度京都に滞在、いずれも講演のお仕事で、日本に来られた時に興味深い京都にて、セラピストとしての興味あるもの、アーティストとしての興味あるものを沢山体験して帰られます。

今回も事前のリクエストどおり、1日目は雨の中を圓光寺へ水琴窟の音を聴きに。大雨で拝観者は私たちのみで、2人で水琴窟や雨の苔の庭を満喫しました。

2日目は早朝5時半からの圓光寺の座禅に参加、作務も体験清々しい精神の体験をされました。家でゆっくりお茶とおしゃべりをして、午後からは花見小路の友人のギャラリー。前回にもご案内してお気に入りのギャラリー、ちょうど素敵な絵の展覧会で、京町屋の雰囲気も味わって、夕方からはやはり京町屋でのお能の会に。美しい能衣装や能面もたくさん見せていただき、謡の声に驚かれました。

3日目は1日奈良、法隆寺から中宮寺へ。雨で人も少なく、2人で中宮寺の弥勒菩薩様に大事なお願いをし、静かな感動のひとつでした。そのあと奈良公園へ。東大寺から二月堂、奈良では素晴らしい仏像に出会えたのが感動されたようでした。

4日目は五条坂の河井寛次郎記念館へ。陶芸家でもある彼女はとても来てみたい所だったとか、静かに長時間楽しまれていました。そしてこの夜は、以前近畿支部におられたTさんの紹介で、祇園祭の船鉾町のお囃子の練習を拝見させていただき、お祭りの雰囲気を味わっていただきました。お陰でめったに見られないお囃子の練習風景を楽しませていただきました。

連続して夜遅くまで出歩いて、2人とも疲れを感じながらも満足の心地でした。

5日目は滋賀県の琵琶湖畔の佐川美術館へ。Sさんのお好きな楽吉左エ門のミュージアムへ。ここへは遠いので、私の友人の車でドライブ。午後は京都に戻り、三十三間堂を見て、岡崎の京都近代美術館の北大路魯山人展へ。

今回はすべてSさんの事前のリクエストに沿って、プランを準備、盛りだくさんのスケジュールとなりましたが、すべて、体験していただきました。Sさんの人徳でしょうか、色々な方のご親切で、今回も楽しんでいただけたようです。又、是非お待ちしております。（私も5日間楽しい旅をしたような気持ちです。）

ホームステイ盛り沢山の報告

和泉市 A.K

M(34)女、B(46)男 モンゴル 5月14日～16日

(モンゴル障がい児教育研修支援ホームステイ)

Wさん宅から、我が家に来られました。障がいのある子供を持つ保護者協会のおふたりでした。

Bさんは、5人の子供さんがいらっしや、タブレットを使ってモンゴルの生活風景を見せてくれました。また、知的障がい者を対象にしたスペシャルオリンピックの事や、YL(ヤングライフ)の活動も教えてくれました。3月21日は世界ダウン症の日で、5月15日は、国際家族デーだと知りました。

Mさんは、ご家族で民族衣装をつけての記念写真を見せてくれました。お買い物を希望でしたので、梅田で、ユニクロ、心齋橋のアップルで 아이폰、なんばのドンキホーテでお菓子、そして我が家近くの靴屋さんにも行きました。娘さんに、サンダルを買っていました。



アムティタイ（おいしい）、ダイジュウイー（大丈夫）という言葉を教えてもらいました。

モンゴルでは、牛・羊・山羊・馬・駱駝のミルクを飲む事ができるそうです。種類の多さにちょっとびっくりしました。自然、草原の世界に、モンゴルは訪れてみたい場所です。

S(F) モンゴル 7月5日から1泊2日



Hさんの妹Sさんが我が家に来ました。島根からモンゴルに帰る途中ではありましたが、楽しい時間を過ごしました。私たちは、モンゴルでゲルに泊まり、牛・馬・山羊・羊・らくだのミルクを飲んでみたいと思っています。月曜日、学校の支援学級を見たいと希望があったので、中学校での英語の学習、小学校での学習の様子を見学しました。そして、粉末緑茶をHさんに頼まれて探しましたが、同じものがなかなか見つからず困りました。また、知り合いに頼まれて、メイドインジャパンのビデオカメラを探しましたが、どこのメーカーであってもそのものは存在しないそうです。アジアに部品工場と製作工場を出している会社があるからです。ビデオカメラカタログをもらいました。そういえば、モンゴルのみなさんは、日本製にこだわっていました。それを見つけるのは大変！と思いました。ランチは、夫の大好きな梅田にあるリーズナブルなブッフスタイル和食にしました。いろいろ選べますよ。その後、Hさんの家に行くため、大阪駅で別れました。

E(F) P(M) S(F) C(F) L(M) フランス

7月17日から3泊4日でEさんファミリー我が家に来ました。成田ナンバーのセレナ3ナンバーに乗って、家族5人が高山・名古屋場所を見てからだったので、夜10時頃到着でした。台風11号の影響で雨模様の日でしたが、子供達は、元気いっぱい車から降りてきました。レンタカーを利用してサーバス・オートキャンプ場等の旅行をよくしているそうです。京橋のホテルに滞在している従妹に会いに出かけましたが、当日は、環状線が動いておらず、地下鉄を利用していました。次の日、本当は、舞洲オートキャンプ場に行きたかったようですが、連休中で一杯でした。あちらこちらのオートキャンプ場に電話しましたが、どこも満員。こんなに人気だとは思いませんでした。私たちは、久しく行ったことも無く、世の中の動きが分かっていませんでした。彼らも、日本でみるのは、若者ばかりだそうです。次の日、朝出かける用事があったので、6時前に次の場所へ移動してもらおう約束で、もう1泊してもらいました。四国、広島、鳥取、京都へ行くそうです。



S M (M) S T(M) タイ



7月22日~26日の4泊5日でタイから2人が我が家に来ました。2人とも、数回は日本に来たことがあるが、サーバスは初めての体験だそうです。ゲストカードならぬホストカードを書いてほしいと頼まれました。甲子園に行きたいと希望していたので、虎ファンの友達に聞くと、この時期は創設80周年の記念する黄色のジャージーをもらえるファン感謝祭が行われるそうです。ちょっと無理かもねと2人に伝えました。近くだけでも行きたいと希望して出かけていきました。私たちは、家で2人ともどうしているのかしらと話しながら

ら、テレビを見て藤浪選手の活躍ぶりに胸を躍らせていました。次の日、私たちは、広島に行くため9時頃起きて来てもらい、昨日の甲子園の話を聞きました。2人とも興奮して甲子園でチケットを手に入れて応援して感激したようでした。近くに、ホームランボールが飛んできて写真を撮っていました。大阪の観光も楽しんでいました。

H(M) A(F) イギリス

7月27日から29日の2泊3日HとAさんがイギリスから我が家に来てくれました。メールをもらった時に、17歳のH・20歳のAさんを受け入れる時にふたりで話し合いました。LOIがあるのだからOKだと思う私と、未成年にこだわった夫。HにメールしてHの父Rの確認を取りました。RからはOKだと返事がありました。Aは、かなとカタカナに興味があり、漢字を勉強しているそうです。グリとグラとすみれちゃんの絵本を貸してあげました。自分探しに来た2人、インディペンデンス？ 人に頼らないことがそういう意味なのか？ 人に頼ってもいいのでは？ 人に頼らないことが自立につながるのか？ つっぱって生きていた若いころを思った。これを乗り越えて、大人になっていくのだな。私たちも周りに支えてもらったのだらうと思った。



C(M) D(F) 韓国



8月6日親子で我が家にトラベラーとして来ました。ピーチで関空に来たため、電話で電車がいないという事でお迎えに行きました。7日、大阪城、なんば、JR 大阪駅を散策していました。8日奈良公園に、9日は京都へ移動して行きました。

夫の名前は韓国版LINE タケオ、私の名前は韓国でかわいいクィヨミというらしく、Dは私達の会話を聞いていてびっくりしていました。

Dは、アメリカに留学しています。兄も留学しており、将来はアメリカで暮らしたいそうです。Cは、美術の先生で中学校を掛け持ちで行っているそうです。奥さんも学校の先生だそうです。ソウルからちょっと家は離れていると話してくれました。

ショートメッセージ

京都市 K.T & S.A

5月13日に、アメリカ人のカップル(J&K.Z)をデイホストで受け入れ、京都市内をご案内しました。京都の後は東京に行かれ、次はベトナムに行かれるとのことでした。

4、会員交流—北から南から—

モンゴルからの嬉しい知らせ

京都市 H.T

5月にモンゴル障害児教育研修団11名をお迎えしましたが、その中に自閉症の9歳の男の子C君とその両親もいられました。モンゴルでは障害児がよく理解されていず、家族で外出するのをためらうという状態だそうです。C君は障害児学校に通っていましたが、よく適応できず、学校から扱いに困って家族に引き取りを求める連絡が多々あるという状態で、彼は学校に行かなくなっていました。日本を訪れた後、学校をかわり、そこではよく適応できて学校に行っているという事です。C君の両親はとても喜

ばれ、「本当に有難う。Cは日本から帰ってから、とてもよくなった。是非日本に知らせたい」という事で、Hさんからお知らせがありました。

以前C君は学校で5~10分位しか座っていられなかったのに、今は30~40分座っていられ、何か一生懸命書いている、又、家でも宿題をしているそうです。学校からも両親に迎えに来るようにという連絡はなくなったという事です。自閉症の人は対人関係が苦手ですが、先生にキスしていいという事もあるそうです。Hさんからは、両親がC君を受け入れ、注意を注ぐようになった事が、C君に大いに影響していると思うとありました。



日本では、C君は町中で、又、行く先々で自然に受け入れられていました。障害児教育の専門家、K様は、C君のご両親に自閉症児について、色々ご指導して下さいました。又、C君の御家族は大津のSさんが受け入れ家庭でした。C君のご両親は、Sさんご夫妻のC君に対する接し方から、多くの事を学ばれたと思います。先日、Sさん宅を訪れた時、「C君はよくわかっているのに、その事が理解されていない。〇〇したら駄目とか、彼にはとてもストレスがかかっていると思う。私たちはインスピレーションで彼の要求を理解し、大丈夫と励ました。彼は良い子よ。近くであれば彼のベビーシッターをしたい。」と言われたSさんでした。

勿論C君自身も日本で心が開放された事は、言うまでもないと思います。又、こんな良い報告が皆で共有し合えたらいいですね。

5、お知らせとお願い

支部長

*いつも総会に使っていた大阪の弥生会館が閉鎖され、使えなくなりました。それで今年の近畿サーバスの総会は梅田のMorishita（モリシタ）という所で12月20日夕方から行います。詳しくは改めて連絡しますので、今からカレンダーに印をつけて参加できるように、よろしくお願いします。

*2015年度サーバス年会費（一般3000円学生2000円休会者B1500円）未入の方は、次の口座へ宜しくをお願いします。口座番号00990-6-33645 加入者名 日本サーバス近畿支部
以上